



和歌山県林業試験場の最新情報

「やまびこ通信」



■ この一年の取り組みとお礼

研究を行えば1年後には一定の成果は得られます。(期待していた結果と違う場合もありますが・・・) 得られた成果を研究動機とあわせてわかりやすく整理し広く公表するとともに、様々な意見を頂きながら1年間の「振り返り」を行い、次年度の研究の糧としていかなければなりません。

理想的な形としては、様々な意見を頂くなかで関心ある方々からの今後の研究への期待感が感じとれた時ではないかと思えます。研究者が考える「何を解明するための研究か」と、研究成果を期待する方々の「これを知りたい」が一致する場合だと思えます。

一方で研究には基礎的データの蓄積や将来への投資的研究など、必ずしもタイムリーな研究テーマには収まらないものもありますが、この点についてもご理解いただければと思います。

本年度当試験場では、競争力アップ技術開発事業で6課題、基礎研究で3課題、計9課題に取り組み、1年間の研究成果として報告の運びとなりました。

9課題を分野別にみると下記のとおりです。

- ・新種・優良品種 2課題
- ・病虫獣害防除 3課題
- ・木材加工 2課題
- ・特用林産 2課題

研究成果については、これまでは2月中旬頃に地元上富田文化会館において成果発表会を開催していました。しかし本年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、初めて動画配信による視聴をお願いすることとなりました。成果発表会への参加を予定していただいていた皆様には、ご不便をおかけしたことを思っております。当試験場としましても、会場に来ていただいた皆様との意見交換や雑談の中から感じる研究への思いや要望は大変貴重だと考えていたので残念な思いがありますが、一方で今後はこの様な情報発信も必要になってくるとも考えています。どうかご理解のほどよろしくお願い致します。

今回発行の第14号では、改めて本年度の研究成果要約と最新のトピックスを皆様にお届けさせていただきます。

本年度も残すところわずかとなりましたが、新年度も引き続き当試験場の運営並びに試験研究の実施にご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願い致します。(場長 大塚 康史)

■ 令和3年度成果発表会 発表内容(要約)

今年度はコロナ禍のため会場での発表会を改め、研究員の発表を動画に収録し、「You Tube」にて3月22日まで配信しています。まだ視聴可能ですので、課題毎のURLにアクセスをし、この機会には是非ご視聴願います。ご質問等があれば、発表者へ直接、電話・メール等をお願い致します。

○「クマノザクラの保全と活用に向けた取り組みについて」

(https://youtu.be/q-yYe_9InVc)

経営環境部 研究員 的場 彬通

クマノザクラは日本において約100年ぶりに新種記載されたバラ科サクラ属の野生種である。クマノザクラの増殖方法を検討するため、



挿木・接木によるクローン増殖手法について検討した。また県内10市町村から73個体の優良候補木を選び、簡易評価を行った。サクラ植栽地の土壌を採取し、連作障害の有無とその対策について調査した。

○「第二世代マツノザイセンチュウ抵抗性アカマツ品種について」

(<https://youtu.be/WhbAseLK9Io>)

経営環境部 中辺路試験地 主査研究員 斉藤 雅一

西南日本で選抜された抵抗性アカマツの中で、抵抗性が上位のクローン同士(4品種、6組合せ)を交配し、これまでよりレベルアップした抵抗性を有する第二世代抵抗性品種の創出を行った結果、6家系7本が新たに品種認定された。



○「簡易型強度測定器による県産スギ、ヒノキ原木の強度性能」

(<https://youtu.be/LNRzBjZ87Y8>)

木材利用部 主任研究員 山裾 伸浩

県産スギ、ヒノキ原木の強度性能に応じた選別及び強度性能の分布状況を推測できるデータベースの構築を目的として、県内の原木市場で簡易型強度測定器による原木のヤング係数(変形しにくさを表す、強度性能の指標)データを収集し、樹種別、径級(太

さ) 別等に集約、分析を行った。

この成果を活用することで、強度性能の明らかな紀州材製品の効率的な供給に向けた原木の選別、ひいては紀州材ブランドの向上に資することが期待される。



○「サカキを加害するサカキブチヒメヨコバイの防除対策について」 (<https://youtu.be/8FHIEnw4XjQ>)

特用林産部 主任研究員 田中 作治

国内有数の生産量を誇る県産サカキの葉に白点被害をもたらすサカキブチヒメヨコバイの防除技術の確立のための研究を実施し、3種類の殺虫剤が農薬登録され、研究成果をまとめた防除マニュアルを作成した。また、生産者やJA関係者を対象とした研修会を日高川町で開催し、普及を行った。



さらに、粘着シートを利用した農薬を使用しない新たな防除方法の検討として、市販黄色粘着シートを場内と県内防除モデル地区(田辺市、日高川町、古座川町)に設置し成虫捕獲試験を行った。その結果、ヤマブキ色シートが捕獲数が多く、育苗ハウス等の密閉された空間であれば防除資材として活用できる可能性があると考えられた。

○「ホンシメジ感染苗の作成および林地栽培の検討」 (<https://youtu.be/vtHXGtd6XI>)

特用林産部 主査研究員 杉本 小夜

ホンシメジは味が優れ商品価値の高いきのこであり、生きている樹木と共生関係を築く菌根性きのこである。



ホンシメジの栽培による林地活用を目的に、菌糸を培養した土壌培地を用いて、感染コンテナ苗の作成と、林地に生育しているウバメガシへの接種を行った。

その結果、感染苗では菌根が多く形成された苗ほど苗高が高くなる傾向が見られた。また、林地に生育しているウバメガシへの接種では、実施した5カ所のうち半年後に2カ所で菌根の形成を確認した。

★ 最近のトピックス ★

○シイフローリングのパフレット

県内にはシイが豊富にあります。しかし、割れや変形などの損傷を抑えながら乾燥させることが難しいため、チップや薪等の低利用に止まり、家具や内装材といった用材利用がほとんどされていませんでした。このため、シイは大きく成長し、そのまま放置すると木を枯らしてしまうカシノナガキクイムシの温床となるため、周りの樹木への被害拡大が懸念されています。

そこで、シイを用材として利用するために、当場では乾燥の研究と性能評価を行い、シイのフローリング利用につながりました。



このシイフローリングに関するパンフレットを作成しましたので、関心のある方は木材利用部までご連絡ください。(木材利用部 一岡)

○イタドリ新商品が東京で販売開始!

令和元年度に日高川町生活研究グループ美山支部「イタドリ部会」と林業試験場、工業技術センターにより共同開発したイタドリ新商品「美山の贅」が、東京都有楽町にある県アンテナショップ「わかやま紀州館」で3月1日から販売開始されました。販売期間は5月31日までの3ヵ月間です。

「美山の贅」はポリフェノールを多く含む部位である花と皮をブレンドしたイタドリ健康茶、若芽の先を活用したジャム



ペーストとドレッシングの3商品です。和歌山の郷土山菜であるイタドリの商品を、首都圏の方々に知って頂ける良い機会になることと、生産者の方々にとって更なる弾みになることを期待しています。

(特用林産部 杉本)

編集・発行 和歌山県林業試験場

〒649-2103 西牟婁郡上富田町生馬1504-1

TEL : 0739-47-2468 FAX : 0739-47-4116

※『やまびこ通信』は「和歌山県林業試験場のホームページ」にもアップしています。